



復興まちづくり訓練にあたって

ご紹介いただきました藤林でございます。

前半のお話では、各先生方から多くの体験を交えたお話がありました。皆さん今日はびっくりするようなことがいっぱいあるのだらうと思います。私も、阪神淡路大震災の現場に上司と一緒にってきました。そこで上司から「君たち若いんだからな。いつかね、東京でもこういうことが起こるんだから、よく見ておきなさい。」と、アドバイスをいただきました。

先生たちにおかれても、日本の各地での被災した地域に行かれ、体感されたことを分かりやすくまとめていただきありがとうございました。

災害はいつ起きるか分かりません。先生方におかれては、被害を少なくするために、ご尽力いただいているなと思いました。前半のところでは大変有意義なお話をしていただきまして、ありがとうございました。

座らせていただきます。

今回は、都立大学及び町田市のご協力をいただきまして、まちづくりの訓練を行いました。その1回目の訓練の中身を、どんなことをやったかご紹介させていただきます。

まず、この訓練に入ります前に、高ヶ坂地区におきましては、他の地区も皆さん同じでございますが、通常の防災訓練というのを毎年やっています。ですが、どちらかという防災訓練がちょっとマンネリ化してきているような部分もあったと感じていました。

そこで、「防災フェスタ」という形で「あらこれ何？」という風なタイトルでございますけれども、より自分の事とするため、「いや、これは他人事ではないんだよ」というところから、「私たちにこの被害が襲いかかってくるんだよ。そこを認識するための訓練に変えよう」ということで、数年前から「防災フェスタ」というような形でやり始めました。

これは東京都から財政的支援をいただき、フェスタという形で実施しました。皆さんもね、一生懸命防災訓練をやっていますし、町田市も総合防災訓練等をやっていると思います。

そこで、もうすこし市民目線での訓練を計画してみました。まずは地震が起こるんですね。地震が起こるといのは、どういう経験をしますか？といえば、起震車に乗ってみて地震を体験することから始める訓練です。





そこから始まって「家が潰れてしまった。だから避難所へ行かなくちゃいけない」という時間的な流れをこのフェスタの中でやったものでございます。

避難途中では火災に遭遇したとの想定で、煙の中を避難したり、消火訓練を。そして家屋が倒壊し人が中にいるとの想定では救出訓練等を屋外で実施。

参加した皆さん方は、「何、何？」というようなところから始めたんですけども。大変良い訓練だったと思います。

また、体育館の中では工学院大学の先生による、「東京防災学習セミナー」を取り入れました。訓練の中に大学の先生のお話を聞くという大変ユニークな体験をしていただきました。

4 グループに分かれまして訓練を実施しました。訓練の中で、「え？大学の先生のお話が聞けるんですか？」などのコメントがありました。

そして画面を見てください。皆さんも同じ訓練やってますよね。ここで違うところ、町の人たちが避難施設でのテント等の設営を説明をして、町の人たちが聞いているんです。聞く方たちの姿、見てください。椅子に座ってやっているんですよ。皆様方が今までの訓練に行くと、立って説明を受けていた。事前準備も自分たちで協力しあって行っています。

しかし、町の人がやると、こういうふうに聞く人にも聞きやすくするために椅子を出すと、心配りが違ってくる。ここに地域が自分たちでやることの良さというものが、あるのかなというふうに思っております。

それで私はこれを見て、「やる気が出てきているな。じゃあどうしようか」と考えました。やりっぱなしじゃ、ダメなんですね。

実は、東京防災学習セミナーというのは、東京都の支援でやりますから、「皆さんにアンケートを取ったのを、送り返してくださいね」となっていました。アンケートを東京都に送る前に、手書きでまとめてみたんです。

当日ですから全員が回答してくれたわけじゃないんですけども、やはり皆さん訓練をしてみたら、「やっぱりね、家にいるのが良いよ。逃げないで済むように、家庭で備えるのはどんなことがあるのかな」という意見でした。





そして次に多かった回答が、「そうは言っても大地震は起きるってやっぱり言っているから、生活再建どうなっちゃうの？」こういうご意見も多く、大変興味がありました。

それじゃあ、家庭での備え。それからもしも災害が起きたら、どういうふうに元の生活に戻るのか。その辺を訓練でやってみたらどうかと考えていました。

そんな時に町田市広報誌で、町田市が都立大学と協定を結んで、事前の復興まちづくりを始めることが載っていました。「あ、これだこれ、みんな食いつくよ」ということで、町会長の皆さんにお話をしたら、高ヶ坂地区の皆さんが「いいね。やってみて」というふうになりました。今日のようなセミナーを受けて、間違いなくこれは取り入れられる、ということになりました。

しかし、みなさん不安ですよ。『何やんの、どうやんの、自分達って何するの』ってわかりません。ご心配なく。このように、事前に説明会をしっかりとやっていただけるんです。

ですので、「私たちはこの地域で、こういうことをやりたいな」ということでやると、左上の図面でございますけれども、しっかりと私たちの意見を取り入れていただき、町田市と大学の方で事前用意をしていただきました。

また、ここの地区でどういうふうに歩けばいいかということもですね、事前に話し合うということで、主催者側の不安を本当に解消してくれるということもやっていただきました。

そして、まち歩きでございますけれども。事前に私たちが提案した地区を調べておいていただきまして、4つの班に分かれて、崖地ですとか、普段行かない小川のところですかね、恩田川ですとか、それから避難場所、こういったところをコースに入れながらですね、「ここは危ないよね」って私たちが感じると、いち早く先生方がコメントをその場でしていただきました。「ここはちょっと危ないかもしれない。こうだね」というような感じです。自分たちの街中を歩きながらする。とてもいいと思います。

そして全員が戻りましたら、今度はそれをまとめるわけです。すごく真剣にまち歩きをやって来ましたが、「報告するってどうやってやるの？」との意見がありました。

ところが、グループワークで必要な資料等は準備しといてくれていました。歩きの時にカメラを持たされ「写真撮ってくださいね」、写真撮ったら会議室ですぐに取りまとめ用に印刷し





てくれる。また、皆さん机の上には、白地図が用意してあって、それぞれ歩いたところに写真を張り付ける。次に、私たちは「ここはちょっとこうだったね」なんて言うと、学生さんたちが付箋で意見を書いて落とし込んでくれました。発表に備えた準備などもしっかりとやってくれました。

とても、自分はやっている気がするんですけど、後で考えると。すごい協力してくれたんだなというのが良くわかります。

そして発表です。発表の時は、普段ですと町会長さんたち、あまり発言しない。会長会議やってもそんな発言しないんですけど。この時は、それぞれの方がですね。本当に自信を持って、「自分が見てきたんだ。だから間違いなくここは危ないんだ。だけど安全のために、こう話し合ったんだ」ということを、胸を張って発表してくださいました。最後には各班についてくださった先生からのコメントもいただきました。

これらの事前準備は都立大学の先生、町田市職員の方々を含めた、スタッフの皆さんがやってくださいました。心配ないんです。自信を持って発表ができるという訓練でございます。

そして訓練終了後のその後です。取りまとめをしっかりとってくれるんですよ。これも素晴らしいんです。なかなか私たちができるということはないんですけども。このように歩きました。その地区をこのようにまとめましたということで、町田市が印刷物にさせていただいて。それを地域の人に公表していただきました。

私は、高ヶ坂・成瀬地区町内会連合会の相談役をやっておりますので、会長会で結果を説明をしました。そうしたら成瀬地区の方からは、「へえ、そんなことやるってすごいな」と。

この訓練は、私たちの意向を汲んで、町田市・都立大学の先生方が、参加者がどういうふうに疑問を持っているか。それをこういうふうに整理してくれるということで、バックアップをしてくれますから、全然心配いりません。

大事なのは、地域の私たちが、やる気を持ってまちを歩いて、遠慮なく質問をして。それを解決していくという方向を、気持ちとして持っていただければ、これは非常にやりやすいし、やるべきかなというふうに思った次第でございます。





大変^{ざっぱく}雑駁ではございますけれども、不安とするところが皆様方いっぱいあると思いますけれども。私たち経験をした地区としますと、ぜひともですね高ヶ坂・成瀬地区だけではなくて、町田市の全域に。状況に応じてはね、地域を広げて協力するだとか。そういうところに繋がられるような訓練になれば良いなと思っております。ありがとうございました。

